

事業所における 自己評価結果（公表）

公表：令和 5年12月1日

事業所名 コペルプラス 横浜蒔田教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5			
	②	職員の配置数は適切である	4	1	現在、制度上は足りているが研修などへは行きにくい。 有給やケガ、風邪をひいてしまった時に職員が少なくなってしまう。	今後、人員を増やしていく予定。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5		個室で課題を行い、広い場所で粗大運動を行うことにしており、分かりやすい。 部屋のドアの近くの角にはクッションなどをつけて対応している。	装飾は最小限にし、視覚への刺激を少なくしている。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5		毎日、掃除、アルコール除菌をしている。 運動時にわかりやすく、テープを張っている。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5		集団療育などがあった際には、その後反省など話し合っている。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		毎年、評価をいただいている。	

	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5		教室の HP にて公開している。	HP, ブログ等、ぜひご覧ください。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		5	第三者による評価は行っていない。	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		本部研修、虐待防止研修、強度行動障害研修など受けている。	指導員にも、もっと研修を受けられる機会を作れるようにしたい。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5			アセスメント、カンファレンスを行い、ニーズや課題を反映させている。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5		コペルの「発達段階観察シート」「アセスメントシート」を使用している。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5			子どもの発達段階に応じた、具体的な支援内容を反映させている。

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5		指導員の中で、共有しながら行っている。 カンファレンスの時間で話し合っている。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	5		コミュトレ等、全員で行っている。	子どもたちが楽しめるプログラムを今後も立案していきます。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		コペル本部のプログラムを実施している。	個別支援教材を追加したり、提示や取り組み方を工夫するようにしている。

	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	5		ご要望や状況に合わせて、個別の中でも他の子と接触する機会を作り、計画に取り入れている。	運動時に、お友だちと一緒に取り組めるようにしている。コミュニティの参加で、集団活動を経験してもらっている。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		毎日朝礼を行い、確認している。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		毎日終礼を行い、共有している。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		毎療育後。HUGにて記録をしている。	記録を徹底し、見返すことで支援の検証・改善につなげています。
	⑳	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5			定期的に行うことはもちろん、必要に応じて支援計画の見直しをしている。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5		サービス担当者会議は電話で行われているので、管理者が対応している。 電話で児発管が行っている。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		5	母子保健、子育て支援との関係は持っていない。	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		5	重心の利用者は、現在のところいない。 医療的ケアが必要な子どもは利用をしていない。	
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		5	重心の利用者は、現在のところいない。	

連携				医療的ケアが必要な子どもは利用をしていない。	
	②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	移行支援利用者が、今までのところいない。	ご要望のある方は、ぜひお声掛けください。
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5		ご要望のある方は、ぜひお声掛けください。
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	療育センターと連携を図り、助言を受けたり情報を共有している。	
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		5	コペルプラスでは、そのようなプログラムがありません。

	②⑨	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		5		現在のところ、参加はしていない。
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		毎療育後にフィードバックを行い、現状の様子を共有している。 療育中に保護者よりお話を聞いている。	いつでも、どんなことでもお声がけください。 管理者、指導員のほうからもお声がけさせていただきます。
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている		5		今後は、ペアトレを実施していきたい。
保護者への説明責	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		契約時に行っている。	
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5		契約時に行っている。	

任等	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		モニタリング等、定期的に実施し、相談に応じている。フィードバックの際、聞いている。	いつでも、お気軽にお声掛けください。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		5		今後は、保護者会など実施していきたい。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5			ご相談などあるときには、すぐに時間を作り、お話を伺います。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		HPのブログ等で公開している。ブログやLINEにて発信している。	ぜひ、ブログもご覧ください。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	5		個人ファイルなど、鍵付き書庫に保管している。	
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5		わかりやすい言葉で伝えている。	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		5		現在のところ、行っていない。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5			契約時にご説明をさせていただいている。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		年に2回、実施している。個別、集団時にそれぞれ実施している。	
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	5		個人ファイルにて確認。	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		5	食べ物の提供はしていない。	

④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		ヒヤリハットが起きた時には、その日にうちに共有している。	事例を記録し残している。また、その日のうちに共有し、対策を検討している。
④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5			年に一度は、研修に参加している。
④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5			契約時にご説明をさせていただいております。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。